

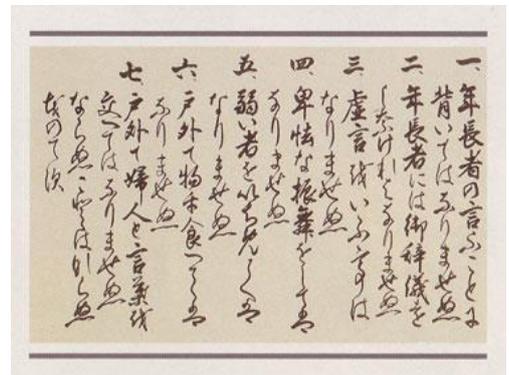
## 「什の掟(じゅうのおきて)」

校長 鈿持 利行

私は、この夏行われたリオデジャネイロ・オリンピックでの日本人選手の活躍から、多くの感動と勇気を与えてもらいました。そんな中、改めて私たちの住む「日本のよさ」について考えてみました。そこで、思い出したのが、私が中学生の時に担任の先生から教えていただいた「什の掟」という言葉です。

「什の掟」とは、江戸時代に会津藩の武士の子どもたちが藩校に入学する前に学んで身に付けていた下にした教えです。会津藩では、同じ町に住む六歳から九歳までの藩士の子供たちが、十人前後で集まりをつくっていました。この集まりのことを会津藩では「什(じゅう)」と呼び、そのうちの年長者が一人什長(座長)となりました。毎日順番に、什の仲間のいずれかの家に集まり、什長が次のような「お話」を一つひとつみんなに申し聞かせ、すべてのお話が終わると、昨日から今日にかけて「お話」に背いた者がいなかったかどうかの反省会を行ったそうです。

- 一、「年長者の言うことに背いてはなりません」
- 二、「年長者にはお辞儀をしなければなりません」
- 三、「嘘言をいう事はなりません」
- 四、「卑怯な振舞をしてはなりません」
- 五、「弱い者をいじめてはなりません」
- 六、「戸外で物を食べてはなりません」
- 七、「戸外で婦人と言葉を交えてはなりません」



そして最後に「ならぬことはならぬものです」と結んでいます。

これは、「いけないことはいけない」「ダメなことは理屈ぬきでダメである」ということです。今から約200年も前の江戸時代のものですが、現代の社会に置き換えて考えても通じることが多いのではないかと思います。「素直な心」「あいさつ」「嘘はつくな」「卑怯なことやいじめはするな」「恥を知る」など、現在、われわれ日本人が学校だけでなく、家庭でも社会でも取り戻さなければならないと言われている大切なことだと思います。

子どもたちには、親や先生に言われなくても、自分で判断して行動することを一番に望みますが、大人が理屈ぬきで教えなければならないこともあります。それは今、教師や親に課せられている責任の一つではないでしょうか。

# 好天の中、2学年夏季学園が実施されました！

## 実行委員からのスローガン

『自然とはぐくむ、伝統的な日本の心 ～自ら広げる礼儀の和～ 』

上記のスローガンのもと、新潟県十日町にて7月29日（金）から8月1日（月）の日程で2学年夏季学園が実施されました。今年は宿舎の方、民泊先の方、送り出してくれた家族に「感謝」の気持ちを持って接しようと実行委員からの呼びかけがありました。参加生徒はその呼びかけに応え、楽しい中にも礼儀を持って過ごしてきました。民泊先の方からのアンケートにもその部分を評価された内容が多く記載されています。また体験活動には全員が参加でき、たくさんの思い出を仲間とともに共有できたことも成果だと思います。その結果、笑顔のはじける4日間となり、最終日、それぞれの楽しい思い出を胸に帰路につきました。実行委員の人たちもとてもよく頑張りました。ご苦労様。では思い出のひとつを紹介したいと思います。



【布ぞうり体験】



【まゆ細工体験】



【あんぼ体験】



【室内レク】



【ラフティング】



【百人一首大会】



【民泊先川遊び】



【バーベキュー】

## 体育館・格技室天井工事の様子 8月17日現在

体育館、格技室工事の進捗状況をお知らせします。グラスウール保温板が張られ、8月17日には、天井の形ができていました。工期に沿って順調に作業は進んでいます。今後、電気系統の工事に入り、10月14日完成予定です。



【格技室天井】



【体育館足場】



【グラスウール保温板】



【体育館天井】

## 安藤主幹教諭を偲んで

先週お知らせしたように本校、安藤博夫主幹教諭がお亡くなりになりました。始業式で校長先生が全校生徒に報告し、その後、ご冥福を祈り、全員で黙とうをささげました。

9月1日（木）のお通夜には生徒のみならず、多くの保護者の方にも参列して頂きました。本当にありがとうございます。今後も教職員一丸となって教育活動を進めてまいります。

後任として新たに高橋典江教諭が国語の授業を担当いたします。